

＜今日の説教のポイント 創世記4章1～16節＞

①1節に注目。エデンの園を追放された人間をなお見捨てられない神！

アダムとエバにカインが与えられるのは当然のことではありません。彼らは神様に罪を犯し、エデンの園を追放されたのですから！ エバの言葉、「私は主によって男子を得た」(1)は、「神様は私たちを見捨てられていないのだ」と喜び、感謝を表していると言えるでしょう。

②不可解な神？ = この世の現実！ カインは怒って当然？

聖書は神様がカインの捧げ物を拒まれた理由を記していません。物語の関心はその後にあり、拒まれたことは物語の前提という感じです。私たちがこの世を生きる時も様々な理不尽な目に遭います。「神様、なぜですか。ひどいじゃないですか」、そう言いたくなる時もあります。しかし、それで怒って罪を犯しても何もいいことはありません。ではどうすべきなのか？ この物語のその後に注目です。

③神はカインに期待されている！ 罪に負けず、罪を支配することを！

「罪は戸口で待ち伏せており、お前を求める。お前はそれを支配せねばならない」(7節)。神様はこうカインに忠告されましたが、カインは罪に支配され、アベルを殺しました。しかし、この神様の言葉は、カインが罪を支配できることも示唆しています。その神様の言葉に耳を貸さず、アベル殺しに突き進んだカイン。3章のアダムとエバと同じです！ 神様を無視する罪。様々な罪を引き起こす罪の源、原罪です。私たちの中にもあるのではないのでしょうか？！

④怒り続けていては死を生じるのみ。では、どうしたらいいのか？

「理不尽な現実」②に怒ってカインが犯した罪は隣人(兄弟)殺しでした。アダムとエバの縦(神)への罪から、横(隣人)への罪に広がった瞬間です。その結果、罪人(カイン)に生じたものは同じ殺される恐怖だったのです(14節)。私たちはこの罪に支配されるのではなく、むしろこの罪を支配する道を行かなければなりません(Iヨハネ3:11-18)。それはどうしたら可能になるのでしょうか？

⑤それでもカインを見捨てない神。この神を信じて生きる道がある！

「自分の犯した罪」と「その罪から生じた恐怖からの救い」をしるし(15)で覚える者として下さった神様。この神様に感謝しながら生きる道があるのです！ イエス・キリストの到来・死・復活の意味と重なります。